教育委員会定例会
平成３１年１月３０日
社　会　教　育　課

『史跡丹後平古墳群保存活用計画』策定について

１．計画策定の目的

八戸ニュータウンに所在する「史跡丹後平古墳群」について、将来にわたる適切な保存活用の方針を定める。

※保存活用計画：史跡の保存と活用の方針を定めるもので、計画策定は文化庁の指導であり、平成31年度施行の改正文化財保護法において保存活用計画の作成が明記。
史跡整備はこれらの方針に基づいて実施される。

２．史跡丹後平古墳群について

【所　在　地】南白山台一丁目１（八戸ニュータウン内、白山台保育園向かい）

【指定年月日】平成11年1月14日

【指 定 面 積】7,016 ㎡

【特　　徴】7世紀後半～9世紀後半の200年間にわたって造られ続けた古墳群。古墳時代を象徴する「前方後円墳」ではなく、それらの築造が終わった頃に造られ始める「末期古墳」（北上川～北海道に分布）。

いずれも“土まんじゅう”と形容される「円墳」で、大きさは平均６m、最大9m。85基の古墳が確認されている。

【指定の意義】6世紀末まで古墳がみられない地域（続縄文系の土坑墓はあり）において6 世紀末から築造が始まる末期古墳（墳丘墓）の豊かな内容を示すもの。当時のこの地域の文献がなく、古代蝦夷社会の実像を現すものとして貴重。

３．現状

●史跡指定地は保護のために現状草地。整備の実施には保存活用計画の策定が必要。

●丹後平古墳群から出土した遺物（「金装獅噛式三累環頭大刀」など）は、平成30年10月1日に国重要文化財の指定を受け、現在博物館で常設展示。

●市民から整備時期の問い合わせ。

教育委員会定例会資料
平成３１年１月３０日
教　育　総　務　課

教育財産の用途廃止について

用途廃止の理由	白銀市川環状線道路改築工事に伴い西園小学校用地の一部を売払うため、学校敷地の一部を用途廃止するためのものである。
用途廃止する土地及び建物	土地：学校敷地　586.66㎡
用途廃止する箇所及び面積	別紙図面参照
用途廃止後の処理	青森県への売払い事務手続きを進めると同時に支障工作物の移設等作業を進める。

（平成３０年度）

施設の配置図	縮尺	1／1000 （Ａ４） 0 5 10 20 30 m	学校名	西園小 学校	調査番号	(都道府県) 02 (市町村) 203 (学校) 03	整理番号	156

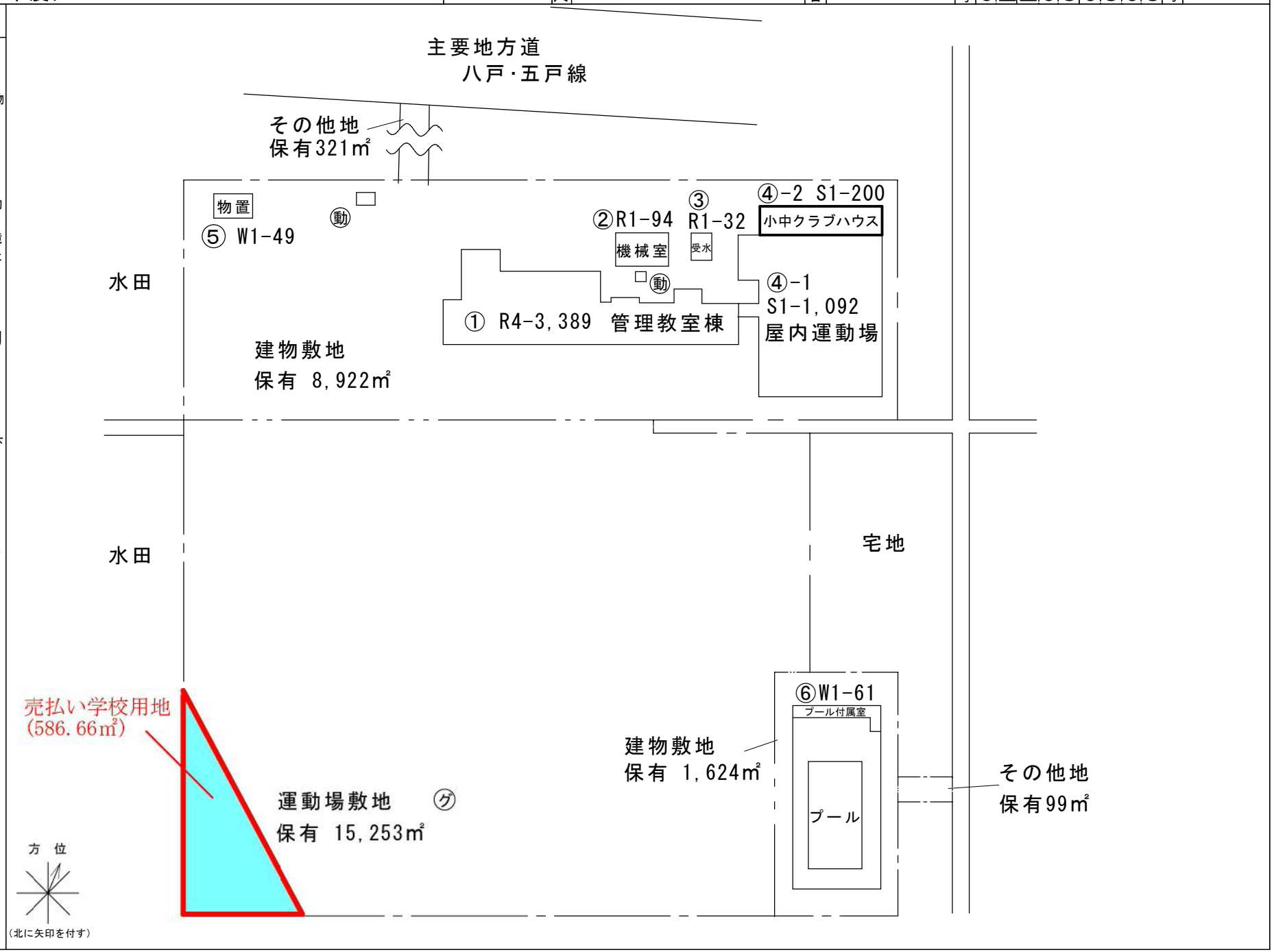
凡　例

建　物

- 未 未とりこわし建物
- 危 危険建物
- 借 借用建物
- 一時 一時使用建物
- 屋外 屋外教育環境整備事業によるもの

建物以外の工作物

- 自 自転車置場
- 倉 倉　庫
- 吹 吹き抜けの渡廊下
- 温 温　室
- 撲 相撲場
- 簡 簡易な小規模構造物
- 動 飼育小屋
- グ 屋外運動場



文　部　科　学　省

教育委員会定例会
平成３１年１月３０日
社　会　教　育　課

八戸市文化財「糠塚大慈寺　山門・経蔵」の指定解除に関する諮問について

本議案は、八戸市文化財の糠塚大慈寺　山門・経蔵が、平成 30 年 8 月 20 日付けで県重宝に指定されたため、八戸市文化財審議委員に対して八戸市文化財の指定解除の妥当性について諮問するものである。

１．経緯

〇昭和 38 年 7 月 26 日、市文化財保護条例第 9 条により市の文化財に指定
　指定理由：禅宗様に和様の形式を加味した山門と経蔵は、用途と意匠に優れている。

〇平成 29 年 9 月～11 月、元八戸工業大学 月舘敏栄氏（建築史）を中心とする調査

〇平成 30 年 8 月 20 日、県文化財保護条例第 4 条第 1 項の規定により、山門・経蔵に加え、本堂を県重宝に指定

〇平成 31 年 1 月以降、市文化財保護条例第 10 条第 1 項第 4 号に基づく市指定解除の手続き

２．県重宝（建造物）指定の概要

ア　名称及び員数　大慈寺（糠塚）本堂、山門、経蔵
　　（市指定名称：福聚山大慈寺山門・経蔵　各 1 棟）

イ　所　有　者　　宗教法人大慈寺　八戸市長者１丁目 6－59

ウ　所在の場所　　八戸市長者１丁目 6－59

エ　建 築 年 代　　江戸時代後期　　本堂　文化２年（1805）※現本堂の建立年
　　山門　天保２年（1831）
　　経蔵　安政５年（1858）

オ　県重宝の指定理由

本堂は、文化２年(1805)再建の棟札が残り建築年代及び棟梁が明確で、本堂内部の円柱及び中備(なかぞな)えに和様(わよう)の出三斗(でみつど)を組んだ意匠は県内にはない。

山門は、天保２年(1831)建立の棟札が残り建築年代及び棟梁が明確で、下層中央の琴柱花頭(ことじかとう)の形式を取る通路は、県内だけでなく全国にも例の無い特長である。

経蔵は、安政５年(1858)建立の棟札により建立の発起から竣工までの経過が明確で、東北地方でも極めて少ない大型経蔵である。

カ　構造、形式及び大きさ

【本堂】

(1) 構造・形式　木造平屋建、鉄板葺き入母屋(いりもや)屋根（当初は茅葺き）、木造軸組構法

(2) 規　　模　延床面積：252.715 ㎡（76.58 坪）
　桁行：17.188m（9 間 4 尺 5 寸）・ 梁行：14.703m（8 間 1 尺 2 寸）
　軒高： 6.100m（3 間 2 尺 1 寸）・ 棟高：14.000m（7 間 9 寸）

(3) 意　　匠　内陣外陣(ないじんげじん)の柱頭及び中備えに和様の出三斗(でみつど)の組物及び折上げ格天井の特長をもつ。当初の茅葺き寄棟屋根を活かした唐破風向拝(からはふこうはい)及千鳥破風(ちどりはふ)付入母屋屋根に改修。

【山門】

(1) 構造・形式　三間一戸、木造二層楼門、鉄板葺き入母屋屋根(当初は茅葺き)、木造軸組構法

(2) 規　　模　延床面積：45.54 ㎡（13.8 坪）

下層規模：6.756m×3.810m ・上層規模：6.218m×3.350m

軒高： 6.265m（3 間 2 尺 6 寸）・ 棟高：9.200m（5 間 3 寸）

(3) 意　　匠　琴柱花頭の形式を取る通路両脇に仁王像を安置し、上層中央に桟唐戸、両脇に花頭窓を設え、軒に出三斗と蟇股を組んでいる。下層にある中備えの蓑束も特長。

【経蔵】

(1) 構造・形式　裳階付木造平屋造、桟瓦葺き方形屋根(当初は柿葺き)、木造軸組構法

(2) 規　　模　延床面積：91.2 ㎡（25 坪）

桁行：9.550m（5 間）・ 梁行：9.550m（5 間）

裳腰高： 5.800m（3 間 1 尺）・ 棟高：9.200m（5 間 3 寸）

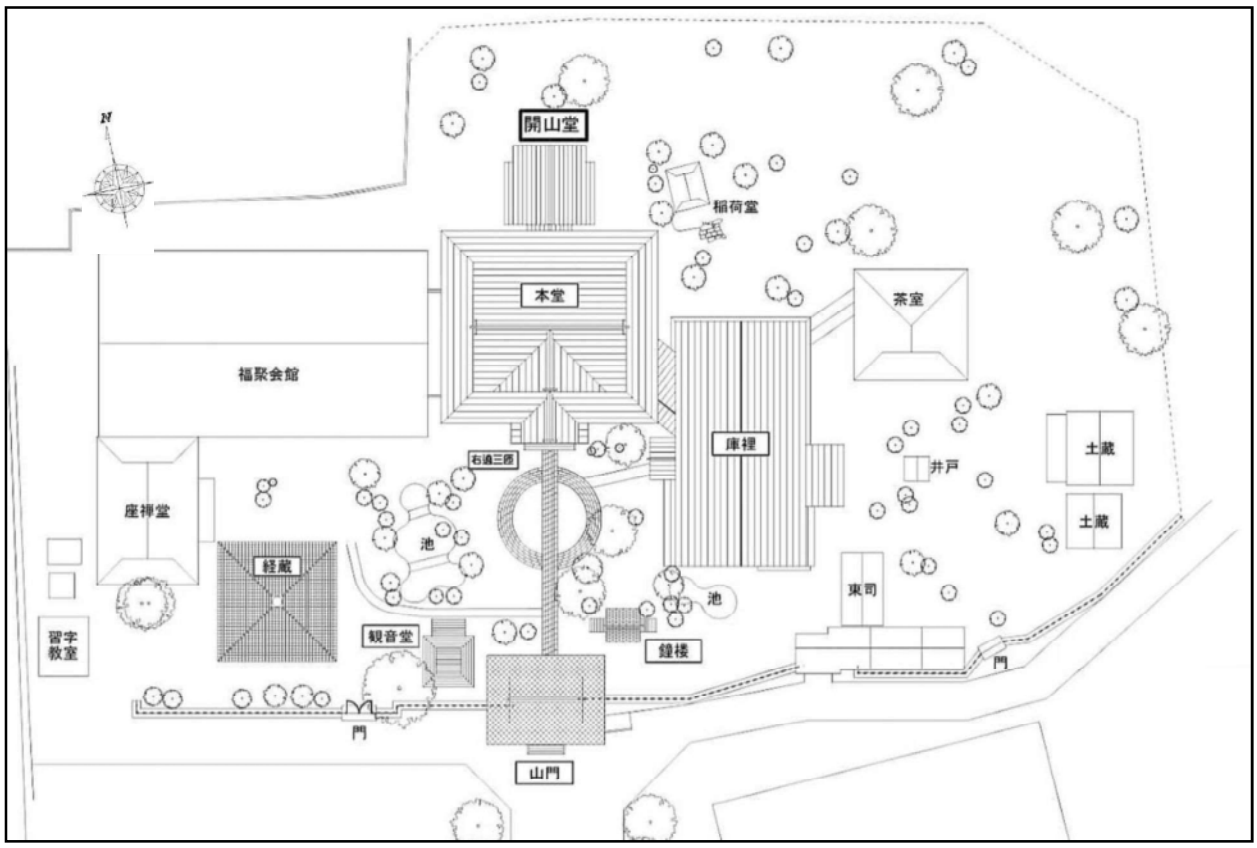
(3) 意　　匠　内部の大型転輪蔵を覆う架構による鞘堂で、裳腰付桟瓦葺方形屋根の経蔵正面中央に桟唐戸を吊り、両脇に花頭窓をそなえる。

キ　沿革

現在、曹洞宗の寺である大慈寺（糠塚）は、大慈寺（松館）の八戸城下における宿寺として延宝年間（1670 年代）に建立されたが、天保元年(1830)頃に宿寺から本寺に格上げされ、明治時代に宿寺制度が廃止されたことにより、相互に独立し、現在に至る。

現在、広大な境内に配置された伽藍を構成する建物には、本堂・山門・経蔵のほか、衆寮禅堂（現坐禅堂）・鐘楼・薬師堂（現福聚会館）・稲荷堂・観音堂・開山堂がみられる。棟札などの記録により、元治元年(1864)までにはこれらが整ったと考えられている。

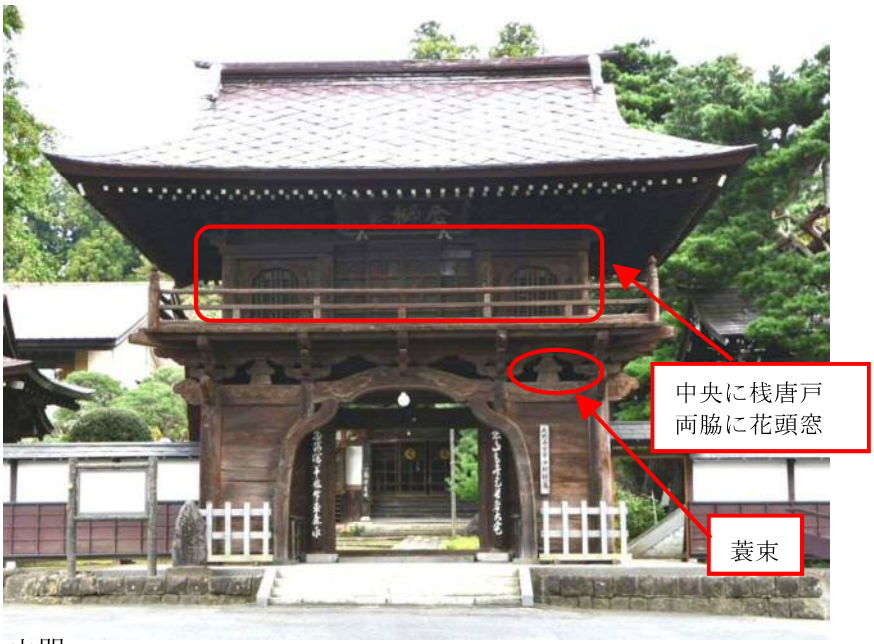
また、昭和 30 年に名工中村松太郎の手により、本堂屋根の大改修が行われている。



伽 藍 配 置

本堂

出三斗



山門

琴柱花頭様式

経蔵

転輪蔵

（写真　月舘敏栄氏撮影）